

大正三年九月拾九日接獲

駐露第一課

政公功 一八九號

大正三年九月十五日

在浦潮好德

總領事代理野村基



外務大臣野村伸顯殿

外交時報、記事、閣下回報、件

客月十五日發行外交時報社説「滿蒙經
營進展論」中「邦人カ浦港及哈爾濱實ニ土
地ノ取得權ヲ享受スルハ總領事自ラ之ヲ
破壞シ云々」記事ニ其ノ心書アリ、次第アリ

在浦潮日本總領事館

詳細可致回報与本月三日付政送第一三二号

貴信内申裁、致致敬承、

当地ニ於テ邦人、土地所有權云々、純テハ全
然心書アリ、應答之及、其強テ之ヲ求ムルハ

本邦寺寺当地布教場カ先年布會ノ決
議ニヨリテ得免借地權ヲ謂ハルモノナリ、之ヲ就

テハ明治四十年末（十月二十七日付、各カ三七五号）屬次
ノ報告（最後ハ大正元年十月廿九日付、各カ一五二号）ニテ内承、

同布教場主任太田實成出立、結果布會
ノ決議ニ由リ、當市内ニ約千二百坪ノ地区ニ對

スル借地權ヲ得、太田ハ之ニ境界標木ヲ建テ柵
ヲ繞ラシ、得、日本式寺頂、建築ニ着手セ

レトシ、實際軍務辦事ヲ中央政府ノ命令ナ

MT 1141 : 1183

MT 1141 : 1182

Handwritten notes in the top left corner, including numbers like 132 and 2.

Handwritten notes in the middle left margin, including the characters '部' and '引'.

リトラ之ヲ差止メシ(要塞側ノ故障ヲ基ク)番来
 出館ヨリ市訓令ニ基キ總督ノ交渉ヲ為シ
 毛今之解決ヲ見サレル次第ニ有之(最近市
 會議員某ハ市長トシテ私的交渉ニ於テ市ノ中央
 部ニ於テ本館等ヲ希望スルカ如キ恰好ノ地ヲ示
 オコト 絶對ニ困難ナシクテ市ノ東北隅ノ地又ハ
 西北面ニ在ル地ニテ美支ナクハ市ノ之ヲ許可ス
 ルニカトモ有之(其本館等例ハ之ヲ好マズ然レ
 ハ本館等例トモ交渉ハ市長トモ交渉ハ市長トモ
 有之)

在浦潮日本總領事館

MT 1141 1184

支20706種

第 257 頁

大正貳年九月廿六日接受

駐政務局 第一課

公信第 一三九 號

大正二年九月十六日

在齊々哈爾

領事館事務代理吉原大藏

外務大臣男爵牧野伸顯殿

外交時報ノ記事ニ関シ回答之件

本件ニ関シ本月三日附政送第九〇號貴信
御下命之趣致敬悉候

常館管内満州里居住本邦人吉田進及近
藤半三郎二名ハ露國人名義ニ限リ蒙古
政廳ヨリ拂下ヲ行ヒツ、兀呼倫池(満州里ノ

在齊齊哈爾日本帝國領事館

南方)ノ渙區ヲ露國人某ヨリ又借シ得タル趣ニ
テ契約書原本(露文)ノミヲ提出シ来リ當
館ノ認證ヲ請求シタルニ付當館ニテハ契約
者双方ノ出頭不便ナリトスレバ契約書面記名
露國人カ相違無ク蒙古政廳ヨリ渙區ノ拂
下ヲ受ケタルモノナルコト及契約書ハ同人ノ記名
ニ相違無キコトヲ證明スルニ足ル文書ノ提出ヲ
命ジ置キタルニ兩名ハ其手續ニ出テタル為メ該
契約ハ未ダ當館ノ認證ヲ經カル事實アリ
察スルニ吉田近藤兩名ハ日本内地ニ於ケル
出資者勸誘ニ便セシメ契約ノ認證ヲ請求
シ出タルモノナルベク身分證明ヲ提出タルコト無シ
外交時報記載多倫諾爾ノ湖面ニ邦人ノ渙収

(大體小林文七支店印行)

MT 1141 1186

MT 1141 1185

ヲ獲ル者アリタルモ領事ハ其身分證明ヲ拒絶
シタリトノ記事ハ多分右記契約認證願出ヲ
誤傳シタルモノナルマシト想像セラル
右及報告候 敬具

在齊齊哈爾日本帝國領事館

(大正小松及七支店印行)

MT 1141 1187

REEL No. 1-0099

0100

Vertical handwritten notes on the left margin, including the date 大正元年十月九日.

Vertical handwritten notes at the top left of the document.



受23311號

大正元年二月 參日接受

文書課長

大正元年二月

參日接受

管政務局

第二課

田植

Main body of handwritten text in cursive style, enclosed in a rectangular border.

MT 1141 1188



寫

拓樺往券八二號

別紙寫ノ通郵務省ヨリ通知有リ此ニ付おき差
考及送付多ヤ

明治三十四年五月十二日

拓殖局第一部長

樺右廳長官在

別紙

外務

公第九八號

明治三十四年四月二十七日

在浦島野徳

海防軍代理

細野本官在

新任「サガレン」知事ト會談ノ件

新任露領「サガレン」島知事「宮内官」グリゴリー

エフ「白」赴任ノ途次先般本滞在中ナリシニヨリ

露領同島ハ元年「ニコラエフスク」領事係ノ管轄

ニ属セルモ事件ノ性質ニヨリテハ往々露領ト交渉

ヲ要スルコトアルニ付キは樺ヲ利用シ會見スルハ

敢テ無益ノ事ニアラサルモノト相認リニ付適者

MT 1141 1190

MT 1141 1189

ノ接會ヲ作り本日知事ト訪向ヲ交換至シタル
際ノ會談ノ要領左記ノ通ニ有リタル右に参考
トシ供費見ルル而シテ後別記申知事ノ申出
ニ依リ修境地方ニ發生スル重大ナラサル問題ハ可
成地方的ニ簡畧ニ解決シタリトノ希望ハ實際
事件ノ性質ニ依リテハ彼我ノおノ之レヲ採用スルヲ
利益ト相考ラレリ右に考査ノ上可然ク交渉
本年迄は多岐生立申進リ候也

サガレシ島知事ト會談要領

本官 自今ハ日露兩國ノ關係力逐日敦睦ノ度ヲ望
ネツ、アルノ今日地理上亦是モ密接ノ關係アル
ニ依リ、サガレシ島地方長官トシテ赴任セラル、固

外務省

下ニ本日會見ノ接會ヲ得タルヲ欣幸トス

知事 自今モ貴國ノ通り貴國領域ト是モ接觸セル
地方ニ赴任スルニ當リ是ニ親交國ノ善地ニ於
ケル代表者タル貴官ト會談スルノ好機ヲ得タル
ヲ甚ク以テ快事トス

本官 實ハ「サガレシ島」所謂領事館ノ管轄
關係ニ於テハ在「ニコラエフスコエ」帝國領事館、
所管ニ屬スレトモ「シベリア」帝國領事館、
々者館ト直接交渉シタルコトアリ後本ニ於
テモ亦同様ノ場合アリシト在るニヨリ此際固
下ト懇談ノ接ヲ得タルハ本官ノ膏以テ満足トス
ル所ナリ貴管内ニハ既ニ本邦人ノ常駐スル者
アリ又時々生稼的ニ渡航スルモノアルニ付何レ固下

MT

1141 1192

MT

1141 1191

ノ配慮ヲ煩ハスコト多ク之アレベシト存スルニ付
之ヲ甘シ徳ノ國下ノ密寫ナル如意ヲ要
望スルヲ得タルハ幸懐トスル所ナリ

和事

(ハ領事ノ文書乃至領事官同族ヲ) 自家ハ此管内
排便ラシトスル爲メハテ曰ク)

ノ事性ハ未夕之ヲ詳知セザルモ若シ貴國臣民
ノ我領土内ニ居住住居年々スルモノニシテ何事事件
ノ發生スルモノ場合ニハ我法規ニ基キ公平無
私界ニ嚴正ニ處理スル法心ニ付貴國臣民ハ全
然法規條約等ニ據リ完全ニ利益ヲ保護セラ
ルルニヨリ諒トセシメ尤モ自家ノ管轄地方ハ貴
國ト接壤セル土地柄故貴國法規ニ能ク研究
シテ悉考スル者ナリ尚茲ニ今ヨリ懇念スルハ
陸上境界ヲ接セル事如貴我國民中不良又

外務省

ハ愚昧ノ徒カ往々法規ヲ犯シテ他領域ニ踏ミ
込ムモノアル事ノ場合ナリトス而シテ斯ル場合ハ
臨境地方ニ屬々起ルハ中間敷ニシテ之ヲ對
シ之ヲ中央政府ニ上申シテ處置スルカ如キ
ハ徒ラニ事端ヲ大ナラシムルモノニシテ貴我ノ間
甚ク好マシカラサルニヨリ之レヲ生ずル事ニシテ輕
少ノモノハ可奉地方領事因満商思ニ兩地方
官間ニ限リ之ヲ解決シテ中間希望ヲ有スルニ
付貴官ヨリは若者貴國者向ニ修通セラレ
得ハ幸極ナリ又我管内ニ社ケル貴國在る
民トシテハ盡ニ澳事家カ及則号ノ事件ヲ
起ササルヤト思ハレ、モ之ヲ對シテハ我法
規ニヨリ夫々取停乃不承分ノ途アルモ尚修

MT 1141 1194

MT 1141 1193

計ナレ事ヲ取ラ惹起セサル極者集テ協ノ
 貴官意ヨリ論道アラハ好都合ナリト考フ
 本官意を遂一了承我在留氏カ閣下ノ公認ナル
 亦制ト貴國法規乃子條約協約等ニ據リ
 十分利権ヲ確保セラルルハ本官ノ期待ニテ疑ハ
 サル所生便儀ニ對スルは是レ自國トテハ我者
 ニ於テ從年全カヲ注キテカノ所ルニ付
 諒トセラレタレ又兩國接壤地方ニ於テ發生スル
 コトアルハ中絶大ナラザル條件ヲ地方的圓滿ニ
 示決シタシトノ貴官ハ本官ノ私見ト全我一段
 スルモノニシテ希恐ラク我者身ニ於テモ同感ナラン
 ト被存ニ付は條約ニ貴官ヲ至願ニ執意
 スハシ本官ハ幸國協ト接壤ノ貴國及ニ
 閣下ノ如キ公認通接ノ意ラ有ルモノハ地方
 長官ノ親任アリタハ兩國ノおノ慶賀ノ至リニ
 不堪
 知事待好意ヲ多謝ス兩國ノ關係カ親善ナレハ
 上地理上兩隣邦ノ實際接壤セル地方ニ於テハ
 殊更善隣ノ實ヲ舉ケサルベカラサルハ勿論義
 ニシテ自公ハ之ヲ以テ自公ニ授ケラレタレ神聖ナ
 ル任務ノ一ト考フ云々

外務省

1141

MT 1141 : 1196

MT 1141 1195

REEL No. 1-0099

0105

電信課長 快

大臣

次官

政務次官

第一六四号

野野外務大臣

本部領事

長崎發 大正二年十一月四日午後六時
本省著 同 年十一月五日午前二時

通商

人事

會計

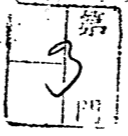
文書

東清鐵道副總裁「ウエンチエ」氏ハ「ホルロ」將軍

以下多數、幹部負尊ト共、今日午後四時未

著同僚大和赤テリニ於テ滿鐵總裁、晚餐會

ニ臨席ニ同僚半北行、等ナリ



MT 1141 : 1197

文書課長

大正二年二月 拾日 録

28

大正二年二月 六日 機受

陸務部 第一課

海軍部 第一課

附屬書類添付

機密第六六號

第二課

大正二年十二月二十三日

在浦朝

總領事代理領事野村基



大正二年二月拾日 録

外務大臣男爵牧野伸顯 殿

馬送付 大正二年二月

日本政府増師案否決ニ関スル新聞記事譯報

機密第一七號

頃者帝國政府内閣會議ニ於ケル二個師團増設案否決ノ報傳ヘラル、ヤ當地ノ一二新聞ハ社説其他ニ於テ

日本政府決議ノ妥當ナルコトヲ述ヘ衷心之ヲ歡迎スル所有之候曩ニ本官當地ニ於テ東清鐵道長官「ホルワ」ト將軍ト面晤ノ節談偶々日露ノ國文ニ及ヒタルカ因將軍「語リテ曰ク南ク處ニ據レハ貴國政府ニ於テハ二個師團増設ノ計劃中ナル由ニシテ而カモ右増師團ハ朝鮮ニ駐屯セルル若ナリト云フカ是レ取リモ直サス對露國策ナルト疑ヲ容レス余ノ觀ル所ヲ以テスレハ現時日露ノ國文ニ是レ以上期待スヘカラサル程親善ニシテ何レノ方面ヨリスルモ衝突ノ惧ナキニアラスヤ日本政府力何故、増師ノ必要ヲ認メタルカハ余ノ了解、若シムルナリ云々ト又當地新聞紙ニ曩ニ歸朝中ノ

MT 1141 1199

MT 1141 1198

REEL No. 1-0099

0107

本野大使ノ演説中、目下日露ノ國支ニ何等困難ナ
ル問題ナリ、頗ル因滿ニ行ハレ、アルモ二個師團増師
設ハ日本現時ノ情勢ニ照シ最ニ極宜ニ適シタルモノ
ナリトノ東京發露都經由電報掲載有之左ハ實
際責任アル本野大使ノ言ナリシヤ否ヤハ知リ難キモ
右大使増師賛成ノ意見ハ、當地才露國人ノ甚大
ナル注意ヲ喚起シタルモノ、如ク思考ヲ致サレ候別紙
ハ因テ一地方新聞ノ記事ニテ敢テ重要視スルノ
價值無之候得共前記、ホルワトト將軍ノ談話ニ照
ラシ其所論當地方大多數者ノ意見ヲ代表シ居
ル様ニモ思考ノセラレ候ニ付茲ニ譯出ノ上御参考
ノ資、供レ候敬具

MT 1141 ; 1201

MT 1141 1200

譯文

日本ノ増師案否決

(十九百十三年十二月四日發刊
アリイカヤ、アキライナト新明掲載)

最近ノ電報ニ依レハ日本ノ内閣會議ハ十九百十四年
度陸軍省豫算案審議ノ結果陸相提出ニ係ルニ
個師團増設計劃ヲ十九百十五年度マテ延期スル
コトニ決議シタリト之ト同時ニ右増師案延期ノ
追報トシテ日本新聞ノ傳フル所ニ依レハ同會議ハ
日本海軍力ヲ尚ホ一層擴張スルノ緊要ナルコトヲ
認メ今後三ヶ年間に超弩級戰艦及同巡洋艦ノ
建造ニ要スル經費九千三百萬圓ヲ豫算ニ計上スル

在清湖日本總領事館

コトニ決シタリト日本政府カ國際政策上斯ノ如キ重
大ナル決議ヲ為セルハ是レ當局者カ同國現時ノ政治
經濟狀態並ニ太平洋對岸トノ國際關係ヲ久シク
考究セル結果ニ出テタルモノナルコト明カナリ日本ノ
陸軍省及大陸發展論者ハ露國ノ慾望ト其南滿
及朝鮮方面ニ對スル進^侵略的態度ヲ抑制センカ爲
メ日本ノ陸軍ハ必スヤ近キ將來ニ於テ再ヒ露國ト干
戈ヲ交フルコトアルヘキヲ豫想シ陸軍擴張ノ急務ナル
コトヲ主張セリ然ルニ一方反對論者ハ日本ハ日露協
約ト日英同盟ノ保障アルヲ以テ敢テ亞細亞ノ北方ニ
對シテ懸念スルノ要ナシ寧ロ日本ノ警戒スヘキハ遠ク

IT 1141 1203

MT 1141 1202

太平洋ノ對岸タル米國ニ在リ見ヨ日本ハ支那ノ中
部及南部地方、其高品ヲ輸出シ主トシテ之ニ依
テ其生命ヲ維持シツ、アルニアラスヤ加之前記支那
地方トノ貿易ハ今後益々發展ノ氣運ニアルヲ以テ
北支那ニ於ケル日本ノ純政治上ノ利益獲得ハ勢ヒ之ヲ
他日ニ讓テサルヘカラス又近ク巴拿馬運河ノ開通ト
同時ニ高工業ノ繁盛ナル米國東部地方ハ支那市
場ト距離短縮シ日本ノ有力ナル競争者トナルヘキヲ
以テ日本ハ生命ヲ賭シテ之ト奮闘セサルヘカラス其
結果ハ單ニ高戦タルニ止マラスシテ迨テハ利權ノ爭
奪トナリ結局日本及其産業上ニ由々敷禍乱ヲ

在滿洲日本總領事館

惹起スルニ至ラント云ヘリ斯ノ如クシテ遂ニ後者ノ意見ハ
勝利ヲ博セリ最初談話問題ハ元老會議ニ附議セラ
レ何等ノ解決ヲ見サリシヨリ遂ニハ陛下ノ聖断ヲ
仰クニ至レリ斯クシテ日本ノ最上官憲ハ海軍派ノ意
見ニ同意シ而シテ陸軍擴張問題ハ深く筐底ニ葬
ラレコトナレリ

日本軍備問題ノ解決如何ニ直ニ露國ニ重大ナル關係
ヲ及ホスモノニシテ日本今回ノ所決ハ同國カ明カニ露
國ニ對シテ侵略的野心ナキコトヲ表明セルモノナリ我
右黨派ノ新聞カ極東ノ事情ニ通セサルコトハ實ニ噴
飯ニ値スヘキモノナリテ同新聞ハ恰モ日本カ治黑龍江

MT

1141 1205

MT

1141 1204

地方ヲ併呑セントスル野心アルカ如ク言ヘリ然レトモ日本ノ決議セル前記ノ事實ハ之ニ對シ一大痛棒ヲ與ヘタルモノト云フヘシ本稿ノ記者ハ本紙ニ於テ屢々日露兩國利益ノ衝突セサルコトヲ明示シテ過去ノ仇敵タリシ該兩國カ政治上密切ニ接近スルコトハ最モ緊要ナルコトヲ説ケリ吾人ハ滿洲ノ戰場ニ於テ互ニ相敬スヘキヲ悟レリ蓋シ開戦ノ結果一國カ勝利ヲ博スルコトアルモ之カ爲メ國家ノ被ル損害ハ戰勝ノ利益ヨリ遙ニ大ナリ此見地ヨリシテ吾人ハ日本政府今固ノ決議ヲ以テ同國カ露國トノ間ニ平和ヲ維持セントスル證尤トナシ衷心歡迎ノ意ヲ表シテ止マサルナリ

起稿者(匿名)

在滿洲日本總領事館

MT 1141; 1207

MT 1141 1206

文書課長

大正三年正月 貳日

大正三年正月廿七日 機密

註政務官 第一課

政機密第三號

大正三年一月十八日

在哈爾濱

總領事 本多熊太郎

外務大臣 野村 陸 野 伸 顯 殿

外交時報ノ記事ニ關スル件

(客年機密第五二号抽信報告第三節哈爾濱商業會務所陳情要領第六點參照)

客年八月十五日發行外交時報第二一號社説「滿蒙經營進展論」中ノ記事ニ關シ九月三日付政送第一二〇號貴信ヲ以テ該記事抜萃相添ノ右記事ノ中當館

在哈爾濱日本帝國總領事館

關係ノ事項ニ付何等心當ノ次第有無御下問ノ趣發承致候右記事ノ趣旨ハ滿洲ノ苦悶及當哈爾濱ニ於テ本邦人ノ或者スルアレハ總領事自ラ之ヲ破壊シタリ而シテ斯ノ如キハ總領事ニ於テ區々ノ法規ニ拘泥シ動モスレハ歐洲人ノ聲ニ恐レ外字新聞ノ記事ニ驚キテ常ニ縮小無為ニ主義ニ隱ルルノ一例ナリト云フニアル様了解被致候處當哈爾濱ニ於テ所謂土地ノ所有權トハ東清鐵道土地貸下規則ニ依ル長期借地權ニ外ナラス御承知ノ如ク當地ニ於テハ東清鐵道附屬地ハ一萬

(附片 永 英三商標)

MT 1141 ; 1209

MT 1141 1208

二千デシヤチン(我一万三千七百十二町步)ニシテ
 其中央部約五平方露里(我五百二十町步)
 ノ面積ヲ填充スル市街地即ケ之ヲ哈爾濱
 市ト稱シ之ヲ詳説スレハ哈爾濱市及之
 ヲ直接圍繞スル地面ハ全部東清鐵道
 租借地ニ屬シ同鐵道廳土地貸下規則
 ノ下ニ之ヲ個人ニ貸下クルモノニ有之而シテ
 右貸下ニ長期ト短期トアリ長期貸下ハ
 東清鐵道存立期間ヲ以テ期限トスルモノニ
 シテ即ケ東清鐵道租借地面ノ完全ナル
 讓渡ヲ意味スルモノニ係リ而モ東清鐵道
 條約所定ノ同鐵道存立期間ノ如キ畢竟
 一個ノ擬制ニ過キサルコトハ何人ノ常識觀
 在哈爾濱日本帝國總領事館
 ニ於テモ疑ハサル所ナルヲ以テ前記長期ノ
 貸下地ハ一般ニ事實上ノ所有權トシテ概
 念セラレ又ルヲ取扱ハシ居ル義ニ有之候如
 短期ノ貸下ハ勿論右様事實上ノ所有權
 タル長期ノ貸下ニ關シテモ東清鐵道廳
 ハ土地貸下規則ノ遵守ヲ唯一ノ條件ト
 シテ國籍ノ如何ニ論ナク何人ニモ之ヲ行
 ヒツツアリ貸下ヲ受ケタル土地ノ賣買讓與
 ニ關シテモ又素ヨリ同様ニ有之現ニ本邦
 人ニシテ右ニ依リ當地ニ土地ヲ所有スル
 モノ先年來二三ニシテ止マラス尚此等ノ邦人
 ハ土地所有ヲ基礎トスル資格ニ依リ哈爾
 濱市會議員ノ選舉權ヲ享有シ既ニ

MT 1141 ; 1211

MT 1141 1210

一又ノ邦人市會議員ヲ選出シ居ルノ実況
 二有之要之當地ニ於ケル土地ノ取得及其
 權利ノ移動ハ現行露國例ノ法規上當事
 者ノ國籍ニ論ナク全然均等且ツ自由ニシテ
 畢竟右法規ノ自然ノ發動ニ外ナラス(該
 法規ノ要領ニ付テハ明治四十四年本省通商局發行滿洲事
 情第四輯當館管內事情報告第十四章第六節參看)夫ノ
 外國人ニ對シ土地ニ關スル權利ノ許與ヲ拒否
 シツツアル他ノ露領地方トハ異リ邦人ニ於テ
 土地取得ノ為ニハ何等苦心慘憺ノ方法手
 段ニ出ツルノ要毛頭無之從テ又總領事ノ
 態度トシテ外交時報記者ノ云ハルカ如キ
 事態ノ有り得ハキ筋合絶對ニ存在セサ
 在哈爾濱日本帝國總領事館
 ルコトハ素ヨリ改メテ申述フルノ要ナク御申
 越ノ外交時報記事ハ中官ニ於テモ該雜
 誌閱覽ノ當時ハ全然没意味ノ浮説トシ
 テ讀流シ置キタル次第ニ有之候處越テ
 九月十五日發行ノ「日本及日本人」第六一四
 號ニ掲載セル大庭某(外交時報主筆)ノ「黑
 龍江南漫遊記」中哈爾濱著ト題スル一節即
 (前記雜誌第七八頁)ヲ讀ムニ
 頃日某日本人が哈爾濱著ノ土地を抵當として
 露人に貸付を爲し、その結果若干の土地所有
 權を日本人某の手に収め得たる事實の如きは、
 奥座敷の實權を我に収むべき理想上思だ吾
 人の意を得たるものなり。然るに本多總領事

MT

1141 1213

MT

1141 1212

なる者あり、特に總領事館の名を以て之を非認
し、敢て邦人永遠の大計を自滅せんとす、其の
愚や真に及ぶべからず。

トノ文句アリ右ニテ外交時報記事ノ真意モ
始テ明白シ貴信御尋越、所謂守官心當
ノ廉ナルモノモ漸ク捕捉シ得タル次第ニ有
之候其廉トハ他ニ非ス即チ當地滿鉄會
社出張所主任夏秋竜一ハ豫テ本業ノ傍
内々露人相手ニ融通手形割引ノ方法ニ
ヨリ金貸業ヲ行ヒ居リシカ大正二年初頭
ニ至リ更ニ露人ニ對シ土地抵當貸付ヲ
開始セル次第ニ有之候處由來當地ニ於
ケル土地所有權（前文ニ說明セル通り嚴正ニ云ハ

在哈爾濱日本帝國總領事館

長期借地權ノ性質ハ前段說明、如ク全ク
特種ノモノニシテ露國法律上貸入又ハ抵當
ノ目的物トナシ得サルヲ以テ之ヲ引當ニ貸
金ヲナス為ニハ表面上土賣買讓渡ノ形ニ取
繕ヒ登記スルノ外ナク夏秋ノ露人ニ對スル
土地抵當貸金ハ即チ此ノ方法ニ依リテ行
ハルルモノナルガ五十露里地帯廢止ニ伴フ
不景氣ノ結果哈爾濱露商ノ金融逼迫
ト共ニ最初ハ二三露商ノ露商相手ニ試
ミラレタル右貸付ハ追々手廣ク相成六月
ノ頃ニハ此ノ方面ニ對スル夏秋ノ貸出高約
十萬留此担保土地ノ時價約四十萬留ニ
達スルニ至リ候然ルニ担保タル土地ハ前段

（管片）水 英三商店

MT 1141 1215

MT 1141 1214

說明ノ譯合ニ依リ全部夏秋ノ所有名義ニ
 切換ヘ登記ヲ了シアル上ニ債務者ニ於テハ
 同人ノ地位ヲ信用シ多クハ何等買戻証書
 等ヲ作製シアラサル趣ニテ見方ニヨリテハ債
 務者ニ取リ隨分危険ナル取引タルノミナラス
 間クハ如クハ其貸出方法ニ至テモ貸出額ハ担
 保タル土地実價ノ精々五割、普通ハ時價三
 分ノ一、期限一々年利息割合ハ年一割五分
 外ニ手数料三分何シモ天引ト云フカ如キ
 隨分苛酷ノモノ由ニテ詰マリ債務者ニ於
 テ期限ニ至リ債務履行出來サル時ハ其所
 有地ハ事實時價ノ三割乃至五割以内ニ
 テ夏秋ニ捲上ケラルルノ形ト可相成次第ナル
 在哈爾濱日本帝國總領事館

又テ追々露人側ノ神經ヲ從動シ殊ニ
 右夏秋ノ新内職タル土地抵當貸付開始
 ハ恰モ正金銀行出張所開設ト略ホ時期ヲ
 同フシタルノ事情ヨリ露人側ニ於テハ一般ニ
 之ヲ以テ其實正金銀行カ夏秋ト云フ俛偲
 ヲ使用シテ營ミツツアルモノナリト見做シ
 遂ニ東清鐵道機關紙ヲ先鋒トシ當地露
 字新聞紙上ニ同銀行攻撃ノ記事ヲ見ル
 ニ至リ同行主任ノ正誤申込ニモ拘ハラズ
 益々右貸付方法ノ苛酷ト具哈爾濱ニ於ケル
 露國ノ地位ニ危害ヲ及ホス所以ヲ執拗ニ
 説述シ惟リ正金銀行ノ立場ノミナラス當地
 ニ於ケル日露ノ感情維持ノ見地ヨリスルモ

MT 1141 1217

MT 1141 1216

(神戸 小 英三商店)

其儘ニ差置キ難キ状況ニ立至リ候ニ付本
 官ハ六月二十八日杉野書記生ヲ東清鉄
 道廳哈爾濱日報編輯局長ニ面會セシメ
 本件貸付ハ夏秋個人ノ任事ニシテ滿鉄
 會社ハ勿論正金銀行モ何等ノ意味ニ於
 テモ全然無關係ナルコト又右様ノ任事ハ
 同行ノ定款ハ勿論銀行ノ地位自身ニ鑑
 ミルモ到底爲シ得サル所タルコトヲ縷々
 説明セシメタル結果同編輯局長ニ於テモ
 「事情漸ク了解シタリト」言明セルモ其
 実正金銀行ニ對シテハ猶全然疑團ヲ解
 クニ至ラサルカ如キ面色ニテ「此種ノ記事
 ハ同銀行ノ迷惑トスル所ニシテ日本總領事
 在哈爾濱日本帝國總領事館
 ニ於テモ甚タ不愉快ニ感スト貴方カ云ハ
 ルルカ如ク我等ニ於テモ斯ル問題ヲ紙上ニ
 登載スルノ餘義ナキニ立至リタルハ非常ニ
 不愉快ヲ感スル所ナリト」本ハ尚胸中ノ
 不快ヲ漏スル態度ナリシモ杉野ヨリ談話
 ノ要旨ヨリ日本總領事館ノ聲明トシテ
 紙上ニ掲載スヘシト聲明シ翌日ノ紙上ニ
 於テ之ヲ實行セル次第ナルカ抑モ本件ノ
 如キ貸付續行ハ滿鉄會社代表者タル
 夏秋ノ地位ニモ鑑ミ此上尙ハ露國例ニ種
 々ノ誤解ヲ與ヘ滿鉄對東清鐵道ノ交情
 ニモ累及スルノ虞アルノミナラス當地露國
 商人多數ノ実状ニ照スニ彼等ニ對スル貸付

MT 1141 1219

MT 1141 1218



金回収ハ中々困難ナルハ結局夏秋ニ於テハ
 惟リ露國側ニ對スル立場ノミナラス(同人ハ滿
 鉄代表者タルノ故ヲ以テ又在留日人中一流ノ紳士トシテ露國側ヨリ
 ハ公私共特別ノ待遇ヲ受ケツアリ)金錢上ニモ損失ヲ招
 クニ至ルキヲ以テ本官ハ先是既ニ夏秋ニ對シ
 内々此辺注意喚起ニ努メ居リタル次第ナル
 處正金銀行本店ニ於テハ自行ノ体面ハ勿論
 日露國交上ニ關スル政府ノ方針ヲ尊重スル
 ニ於テモ本件ノ出来事ハ同行トシテ輕々看
 過スヘカラサル事態ナリト認メ此機會ヲ以テ
 夏秋ニ對シ從前與ヘ居リタル融通ノ高ラ
 三万留込内キ局限スルニ決シ八月初旬具旨
 哈爾濱出張所主任ヲシテ同人ハ通牒セシ
 在哈爾濱日本帝國總領事館
 ムルニ至リ夏秋ニ於テモ豫テ本官ヨリ注意
 次第ニモ鑑ミ本件土地抵當貸付ハ爾後
 断然中止スヘキ旨ヲ本官及正金主任ニ言
 明シタル始末ニ有之候右ハ客年八月初旬
 本官休暇歸朝ノ為メ出發當時ノ事ニ有之
 外交時報主筆大友某ハ本官出發後間モ
 ナク浦潮方面ヨリ當地ニ來リ二三泊ニ夕
 コトアル趣ニ付テハ本案記事ハ恐ラク其際
 同人ニ示テ何等カノ道聽途説ヲ捉ヘ漫然
 弄筆ノ資料ニ應用シタルモノナラン歟ト被
 存候同人ノ筆ニセルカ如ク特ニ總領事館ノ
 名ヲ以テ非認云々ノ事實アリトセハ其ハ露國
 官民モ亦認メテ以テ曰本國々家ノ特種機

MT 1111; 1221

MT 1141 1220



開ノ一トナシ居レル正金銀行カ一種「アンダー
ハンド」ノ手段ニテ高利貸乃至土地奪略ヲ
行ヒツツアリトノ露國側ノ官民ノ誤解(本官ノ
苦心ニモ拘ラス不幸ニシテ未タ全然氷解ニ至ラス東清鐵道長
官ホルツト將軍スラ宛函本官ト私談ノ際右様ノ意味ヲ言説
シタルコトアリ)ヲ打破セシカ為メ本官ニ於テ露國
半官報ノ記事ヲ正式ニ非認セル事アルノミ
哈爾濱ニ於ケル日守人ノ土地取得ハ露國法
規上夙ニ全然自由ニシテ素ヨリ何等ノ裏面的
手段ヲ要セス又別ニ他ヨリ破壊ノ致シ様モ
アルナシ斯ル波常識ノ憶断ヲ前提トセル
記事ニ對シ兎角ノ辯明ヲ試ムルカ如キハ
有碍ニ云ハ本官ノ甚タ不悛トスル所ニシテ

在哈爾濱日本帝國總領事館

寧口無稽ノ譏謗ヲ甘受シ居ル方守官一個
ノ自尊心ニ慍ヲ興アルノミナラス事情ヲ明
白ニセシカ為メハ勢ヒ滿鐵會社ノ紀律以節
制ニ多少ノ反映ヲ與フル等ノ技節ヲ誘致
ス(キ義ニモ有之)旁以テ貴問ニ對シ回答方
追々延引ニ及ヒ居タル次第ニ有之候處外交
問題ニ關シ無責任ノ言論流行勝テ、昨今
此種ノ訛傳ニ關シテモ事ノ真相ハ本省ニ於テ
十分御明素ノ要アルノト存セラレ候ノミナラ
ス事件夏秋ノ土地抵當貸付ノ義ハ其後
不相變當地露人間ノ問題ト相成リ居リ
(夏秋ハ夏後一旦右ノ貸付ヲ中止シ居タルモ今季節ニ至リ同人ハ更ニ
内職ノ範圍ヲ擴ケ豆類ノ賣買ニ手ヲ染メ||之カ為メモ少カラサル

(附)永三館藏

MT 1141 1223

MT 1141 1222



失態ヲ露出シキタ全部解決ニ至ラス——露國仲買商ニ對スル買付
 金前後ノ担保トシテ更ニ數口ノ土地家屋ヲ前段同様ノ方法ニテ抵當ニ
 取リタル為ノ目下同人此種類ノ貸出高、約十八萬留ニ近キ趣ナリ
 現ニ露國官邸ノ考量ニモ上リ居ル様信セシムルノ
 理由モ有之（露年十二月二十九日付ウエンツリ副總裁使命ニ關
 スル機密第五二號抽信報告第三節中露國大臣
 大臣ニ對スル哈爾濱商會）當方面ニ於ケル日露關係
 上ノ一問題トシテ我方ニ於テモ此際相當ノ考量
 ヲ要スルモノアル様思惟セラレ候ニ付其内別信
 ヲ以テ委曲ノ稟報ノ積ニ有之旁改テ別信前
 提ヲモ第子乍不本意茲ニ如上ノ説明ヲ具シ
 貴信御下問ニ對スル回答ト致候敬具

在哈爾濱日本帝國總領事館

MT 1141 1224

(附片 永 英三商標)

REEL No. 1-0099

0120

寫

朕之本野大使ノ歸任ニ際シテ親シク朕ノ意
衷ヲ陛下ニ致サシム
日露兩國ノ國交持テ親善トシ朕ノ欣幸ト
スル處ニシテ朕ノ將來益其關係ノ持續發
展ニシテ切望ス
高此機會ニ於テ陛下皇后陛下及貴皇
室ノ御敏察ヲ祈ル

在露國日本大使館

MT

1141 1229

REEL No. 1-0099

0123

日誌

大正三年二月二日接電

公第一一號

受第一五五二號

大正三年一月八日

在独

特命全權大使杉村邦一

外務大臣勅諭神顯殿

小池政務局長ノ日英同盟談話最近ニ於テハ
日露關係等ニ関スルハハリナリトシテブララシ紙

記事報告ノ件

最後ニ全通信員ハ最近ノ日露兩國關係ヲ論シテ
近時加州向題ニ付ヤ日本ノ上下ハ蓋シテ論議ノ花ヲ咲カ
セツ、アリト云ヒ而シテ現今日本外交ノ本舞名カ依然露

外務省

國ニアルハ敢テ弁説ヲ要セザル処アリ然レバ日東条日ニ對
シテ社署露都電報ノ付ルニ於テハ露紙ノガ査
ウレシヤハ日本カ支那ノ主權ヲ下ニ立テルニ當リテ其
殖民地ト為サントシマアルハ明カニ滿洲ニ於ケル日露兩國
権力平均ヲ破ルモノニシテ露國タルモノキ際迄ニ袖手
傍觀スルニシテ終ルハキニ非ス曰キテ露國ニ植民シテ
事實上支那ヲ分割シテ己ノ同ニ露國カ滿洲ニ注意自
己ノ行動ヲ制限シテ北滿ニ於テ支那ノ主權ヲ尊重スル
カ如キハ愚カ又極マレリト云フニ洵ニ然ルニ處テ露國カ對
シテ是亦其社説ニ於テ露國カ其全カヲ傾注シテ自己法
執リテアル活動ハ日本ニ著シキ不協ヲ與フル性質ノ
ナル事トボシテ露國政府カ其全カヲ傾注シテ自己法
初ノ永久的根柢ヲ此等ノ地カ樹立セントシテ迅雷

MT 1111 1231

MT 1111 30

REEL No. 1-0099

0124

耳ヲ掩フノ暇ナキノ觀ヲ呈ス元來露國ノ極東政策
 ハ屢々全國ヨリ明言セシタルカ如ク日本ノ勢力ニ極力
 対抗スルニアリテ近時一ニ露國指導者ハ其所信
 ヲ大膽ニ表白シテ曰ク黃禍ニ露國々民ヲ威嚇ス露國々民
 宜シク戒心以テ之レニ當ルノ準備ヲ急ムヘカラスト述ハタル者ヲ
 指示シ次テ同勢ヲ以テ勵声一番東京政府ニ警告シテ曰ク
 日本ハ此ノ如キ明白ナル露國ノ敵對行為ニ應ズカ
 ヲ適宜ニ措置スルニハキ一刺ヲモ緩ラスヘキ時ニ非
 ス云コト論レタリ吾人ヨリ以テ之ヲ見ルニ斯ノ如キ状態ノ
 下ニ於テ近時日本ノ諸勢才賦カ増師案ヲ以テ以上延期
 スルノ不可ナラシ蓋ニ唱道スルニ至リタルニ誠ニ故アリ
 ト云フヘレト結語ス

外務省

第百三十四回日英同盟要存

MT 1141: 1233

MT 1141 1232

REEL No. 1-0099

0125

文書課長

大正參年四月廿七日接獲

大正參年四月拾八日接獲

註政務局 第一課

淨書 校正 原簿

機密第 號

第二課

大正三年四月九日

在浦潮斯德

總領事代理 野村其彦

大正參年四月廿八日 謹啓

外務大臣男爵牧野伸顯殿

ソコウチニ 總督ト會談ノ件

曩之本官滯京中、日露國交ニ関シ、
口上訓、次第有之、歸任、上ゴシタケテ、總督
ノ滯浦中、ナリシニ、概シ、本月八日、會見
時、出見大臣、名ヲ以テ、日露兩國係

在浦潮日本總領事館

カ益親善ノ度、リ加ヘ、アハ、常ニ政府ノ大ニ
満足トスル所、ナリシニ、述一書、カ因、總督ノ日
露親交ノ為メニ、盡心、セリシル、所シ
併セテ、將來ニ、對スル、期待ヲモ、希求、シ
ル、處、曰、總督、於テ、此、事、ニ、満足、シ
深厚ナル、謝意ヲ、表スル、ト、共、テ、日露兩國
間、大白ニ、於テ、親善ノ、果、實、ヲ、生、ル、ノ、後、ニ
大ニ、提、携、ヲ、ナシ、テ、果、ア、リ、テ、シ、テ、微力ト、爲、ス
其、方面、ニ、向テ、出、立、ヲ、爲、シ、良、ク、努、力、ヲ、爲、ス
所、アル、ニ、キ、カ、貴、大臣、ニ、傳、達、方、依、請、有
之、候、

野村其彦ノ、概シ、於テ、ウ、ス、リ、録、道、政、策、連
成、工、事、ニ、涉、及、シ、テ、有、ル、處、ハ、口、頭、會、見、ハ、千

MT 1141 1235

MT 1141 1234

3
復

10055號

大正三年五月五日發

註務局

課

公第六一號

第二號

大正三年四月拾六日

在露

特命全權大使岡本野一郎

外務大臣岡本加藤高明殿

日露協定新聞記事譯報一件

當地取引新報四月拾四日紙上於巴黎特
此通信員通信トシテ露國ト日本ト下ニ日
本ノ有力ナル某外交家カ族通信員ト談話シテ
ト稱ス廣汎ナル政治的意見ヲ發表致シ今更
見ニ最初ニ近來往々社會ニ流布セシワレト日獨
在露國日本大使館

全盟成立ノ不可能ナルトテ、日露兩國カポツマス
糸約ノ追加トシテ一九〇七年以來三次ノ協約ヲ重
訂シ極東問題ニ對シテ常々同一ノ態度ヲ執リ
以テ各自ノ利益ヲ保護シ來リタル情状ニ及ヒ
此等ノ協約ノ以テ何レモ一時的性質ノモノトナシ
日露兩國ノ眼目前ニ最大重要ナル支那領
土ニ對シテ何等ノ管理ヲ所ナラズ以テ更ニ全領
的協約ノ締結ヲ必要トナシ之ヲ因テ日本當局ハ
露國政府ニ對シテ提議シワレ、ア、ン、七、露國者而
躊躇シテ決ラズ所トシテ、日露親交トシ
ニ對スル列國ノ情勢ヲ揣摩手ニ獨乙ノ利益ト日
露兩國ノ夫レトハ到底一致セザルナリトシテ
論ニ及ルニテ、事案相違ハ點ナラズア、ン、七

MT 1141 1239

MT 1141 1238

多由、当地社会ノ注意ヲ喚起シタル模範ニ
有之。ペテルブルグニシテ、リエンシ紙ノ如ク、四月於
テ、日本ノ新内閣ト其政策ニナル社説ヲ掲ク
前記通信中ノ文句ヲ其條引用シ自家ノ意
見トシテ、日露接近論ヲ唱道致シ、就ク「誇ニ通
信全文ニ基キ、在社説要領別紙ニ通及譯
及布送附与るハ、此見相成度此段申述有教具

在露國日本大使館

MT 1141 1240 7:66

REEL No. 1-0099

0129

露國ト日本

取引所新報四月十四日紙上掲載
四月十日發巴里特派員通信

昨日予々其心、於有力ナル日本外交家ト會談スル機會ヲ得ル

吾人ノ談話ニ先ツ獨乙皇帝力盡明セシト所トシテ傳ヘラハ、日独同盟力一九一七年、於ノ締結セラル、以テ其場今猶乙ニ露國ニ對シテ積極的要求ヲ提起シ得ルニ至ルヘシ云々ノ風説、由リ啓カレタリ

日本ノ外交家ニ具體的ニ斯ノ如キ政治的結合ノ出來得ルカハ、カハトク切論シテ左ノ如ク述ベタリ

日独同盟ニ出來得ルニ至ルニ至テハ吾人ハ、政治ニ於テ、於テノニテ、全地球上、於テ、独乙ノ競争者ニ英國ト合盟國ノ關係、在ルニ至ラスヤ

在露國日本大使館

國ノ近接ノ可能ナルニ至ルニ至テハ其必要ナルニ至ルニ就テ予々其費下ニ一言セリト欲ス

予ノ見解ニ起ルニ日露戰爭ニ連續セル誤解也

本世紀ノ初頭、一九〇三年、於テ露國ニ對スル日本ノ敵愾心、勃興シタリ、然レモ其主目、露國ニ對スル日本、アラスカ、却テ露國ニ在リ、露國ニ對スル我カ敵愾ノ萌芽、日本ハ鮮魚ノ以テ支那ヲ賄ヒ得ルニ、蘇聯ヲ露國カ攫得ルニ、一時、若シタリ下、露國ハ、鬼ニ命日本ニ其征服セル大陸ノ地ヲ附スルニ、謀セシメ、蘇聯ニ日本ノ手ヲ離シタリト、當時日本ハ蘇聯力、且ニ他國ノ手ヲ、度ルカ如ク、ナク期シタリ

MT

1141 : 1242

MT

1141 1241

リシナリ、然レテ露國ハ川續チ旅吟ク占領シタリ
 吾人ハ露國ヲ対シテ反感ヲ抱キ將來ノ危険ヲ
 醒成スルニ至ルニ至リ、已テハ昔々ハ所ト謂フヘシ
 此際ニ當リ東京ヲ於テ一世ノ名望ヲ負ヒ、伊藤
 公ノ有力ナル一派アリ、日本ノ過激人ハ、概シテ
 最モ必要ナル朝鮮内題、内シテ露國ニ對スル
 譲歩ノ基礎トシテ協約ヲ締結セシメトシテ、盟運シ
 ヲ
 鴨綠江ニ於テハ、露國五冒險家ノ事業ニ「國家
 的」ニシテ、アウガレ也、伊藤公ハ、希望ノ破壞トシテ、
 伊藤公ハ彼得堡訪問ニ、極高ノ目的ヲ有セ、
 遂ニ不成、即チ終リタリ、而シテ其結果吾人ハ露國
 國ハ締結セシメトシテ、協約案ヲ以テ、之ヲ英國、
 在露國日本大使館
 移シ、其ト同盟ノ下ニ至レリ
 其後時局ハ急轉直下ノ勢カクナリ、
 吾人ハ其時局ノ變遷ヲ於テ、干戈ノ交ハタリ、而シ
 テ、將來兩國ノ接近ノ道ヲ、一々貴重ナル平和
 條約ヲ締結シ、亞細亞大陸ニ於テハ、鄰接國
 トナルニ至レリ
 是時以來、日露ノ相互内係ハ、所謂「新時代」ナリ
 露國ハ、我カ盟邦ニ英國ト接近シタリ、而シテ
 日本ハ、對シテ、一九〇七年及一九一四年ノ
 三回ノ以テ、ポーツマス條約ノ追加トシテ、協約ヲ締
 結シ、之ニ、日露ノ内係ハ、常軌ニ復シタリ
 一、爾來、日露兩國ハ、極東内題ニ、内シテ、相提携シ、事

MT 1141. 1244

MT 1141 1243

之當りトハト一再下リナリ
 夫ノ未國外務卿ノツクス氏ノ提議ニ滿面録道
 中ノ問題ニ對シ日露兩國カ一致ノ態度ヲ以テ
 扱係シヨカ如キ又支那修約問題ニ内レ現ニ一
 致ノ行動ヲ執リツルカ如キ其ノ一例也
 然レトモ是等ノ提議ニ單ニ一時的ニモニミレテ
 全般的ノモノニアラス吾人ノ高層的協商ノ外ニ全
 般的協約ノ必要トナスモノ也
 我カ外交當局ニ彼得堡ニ於テ該問題ノ内
 シニ屬テ談判スル所アリトモ是ニ未ダ的確ナル結
 果ノ見ハミ至ラザルヲ予メ知ル所也
 抑レ吾人ノ這般全般的協約ノ締結スルハ一大
 目的物ノ有ラズ而シテ此目的物ニ則チ支那リラス
 在露國日本大使館
 在方ニ支那ノ現状ノ概シハ之レカ未來ノ豫
 見スルコト甚ク不可能也支那ニ或ハ帝政ニ復
 ンハストアルニ或ハ共和政ノ確立スルニストモアルニ又
 或ハ其國土分裂シテ以テ命令的協約ノ發生
 スルニストナリトモ保シ能ハザルナリ而シテ支那ノ運
 命力如何ニ決スルニストアルニ最モ切要ナル利害
 内係ニ日露ノ上ニアリ
 吾人ノ對支那内係ニ於テ又其將來ノ問題ニ
 内シテ日露協約協働動作ノ就テ既ニ政台九レ書シテ
 レストモ信テ臨海列島カ支那内係ニ直接影響有
 ンコト目下ノトコロ日露兩國ノ利害トスル所アリ
 然レトモ是ニ吾人ノ英團ト日露内係ニ在テ之レ
 扱テノ英團ノ現時方針艦隊ノ主力ヲ扱テ

MT 1141 . 1246

MT 1141 1245 . . .

之之政海方面、移し、抑東、い、味、力、二、底、の、艦、
船、之、遊、七、の、こ、ん、の、こ、左、し、其、開、創、の、何、等、故、
際、ノ、生、ス、ニ、ト、ア、レ、レ、ト、セ、思、ハ、シ、サ、ン、セ、而、シ、ク、佛、國、
之、ク、ノ、二、雨、露、國、ト、ノ、肉、係、上、和、英、國、ト、全、様、ノ、能、心、交、
、出、カ、レ、ト、察、カ、ル、ノ、得、ル、レ、

以上ノ内題、和意、ク、有、ス、ル、所、中、亦、未、精、二、回、ア、リ、
已、那、事、運、向、ノ、用、通、之、中、亦、千、何、ノ、於、ク、ハ、權、衡、
、亦、亦、未、開、創、ノ、有、月、通、カ、ク、ノ、知、ラ、ト、口、中、
、予、ノ、未、開、創、カ、ル、人、ノ、對、シ、傳、覺、的、計、畫、ノ、一、如、ハ、ト、
、十、ノ、其、ノ、活、動、ノ、目、的、カ、未、大、陸、及、其、中、央、ノ、身、中、
、セ、ラ、レ、ト、ヤ、ノ、信、ス、其、他、去、人、ノ、需、五、ト、ノ、協、約、ハ、一、場、合、
、ノ、於、ノ、未、去、ノ、對、シ、何、等、恐、ハ、何、ナ、ク、而、シ、ク、之、ノ、取、
、リ、陸、海、軍、ノ、巨、額、ノ、経、費、ノ、取、入、レ、ル、カ、ル、身、中、

在露國日本大使館

我、艦、隊、ノ、擴、張、ハ、其、力、ノ、弱、ク、得、ル、レ、
、獲、之、ノ、肉、シ、ク、全、無、未、去、ト、越、ノ、要、ニ、シ、テ、往、ノ、軍、事、
、上、ノ、ト、ナ、ル、經、済、上、ノ、於、ク、ハ、吾、人、ノ、對、シ、危、險、ナ、ル、事、
、情、ア、リ、吾、人、ノ、妥、價、ト、高、昂、ノ、製、造、ト、其、ノ、市、場、
、支、那、ノ、有、ル、而、シ、テ、中、部、各、者、ノ、特、ニ、其、重、要、ナ、
、ハ、市、場、也、然、レ、ト、獲、之、ニ、至、リ、テ、其、廉、價、ト、ナ、ル、品、
、ノ、製、造、ト、其、製、造、ノ、支、那、ノ、市、場、シ、テ、自、然、我、
、ト、ノ、競、争、者、ノ、信、置、ニ、ミ、ツ、ナ、リ、
、翻、シ、テ、露、國、何、ノ、親、密、ナ、ル、レ、ト、獲、之、ノ、政、海、ノ、於、ケ、ル、
、所、也、ノ、競、争、者、ノ、ト、其、ノ、抑、東、ノ、於、ク、ハ、其、其、意、
、年、各、々、ノ、抑、東、ノ、於、ケ、ル、レ、ト、其、之、政、策、ノ、要、ノ、義、ハ、何、
、ノ、注、意、ノ、抑、東、ノ、集、中、セ、ル、其、際、ノ、業、シ、テ、他、
、ノ、政、海、ノ、於、ク、更、ニ、大、ノ、羽、翼、ヲ、張、ラ、シ、ト、飲、ル、レ、ト、

MT 1141, 1248

MT 1141 1247

斯ノ如ク目的ノ有ラズ他林政府ヲ吾人、対シテ常
 々、好意的態心ヲ示シテ親善シテシテ微笑シテ以テ
 吾人ノ至令スルニ其意高シ、那也、在レカ至之シテ了
 解シテ難カラズ也
 然レドモ、吾人、対シテ之ノ陰謀的カ夫ノ
 器械ヲシテ、吾人ノ欲セシ之所也
 吾人ノ實際的利益ニ吾人ノ驅クテ露也、接近也
 之ニ而シテ、吾人ノ接近シ、日本ト露也、同盟也、通
 人佛國及吾人ノ友邦トシテ、英團トシテ、關係ニ通
 高シテ、吾人ノ露也、外交ニテ、一般ノ形勢ノ利用シ
 支那ノ於テ、總ノ下時ノ出来事、対シテ、吾人ノ協
 定シテ、是カカシ、一ヨリ、而シテ、其ノ如ク、種々ノ
 平和ノ確保シ、以テ、政治ニ、於テ、露也、山ノ信也、是ノ
 在露國日本大使館
 一露也、中ノ日本カ、沿海而シテ、空想倫シ、又、吾人、於テ
 或ハ、種ノ計畫ヲ、ナシ、テ、アリ、モ、ナリ、然レドモ、是レ、等々
 空想ノ結果ナシ
 日本カ、此ノ、対シテ、何等カノ野心ノ、望ム、事、ナシ、大朝
 野及、南洋、海ノ、於テ、考ス、事、其ノ、過、多、ク、人
 ノ、如何、ニ、シ、テ、吾人、於テ、吾人、ノ、方、ニ、テ、事、也、亦、何
 也、アリ、テ、吾人、於テ、吾人、ノ、我、ノ、動、ノ、竹、葉、原、地、ニ、餘
 リ、テ、懸、隔、セ、テ、而シテ、之ノ、獲、ハ、我、カ、勢、力、ノ、強、ク、シ
 、アリ、テ、シ、テ、却、テ、之ノ、微、弱、ナ、ル、事、ナリ
 日本ノ、政、策、ハ、朝鮮、其ノ、南洋、海、ノ、シ、テ、吾人
 日本化ス、ル、同時、我、カ、重要、市場、ニ、南洋、部
 支那、於テ、經濟上ノ、利益、ヲ、安、全、ナ、ル、事、ナリ

MT 1141 : 1250

MT 1141 , 1249

日英交渉
子

リノ極東ノ平和島康ノ保障スルニ是レハ四國
的協定ノカキニカス
日本ニ近キ將來、於テ北米合衆國ヲ一ノ重
大ニ動敵ノ出現ヲ見レバ即チ海軍運河ノ南
西ニ由リ太平洋面、於テ北米國ノ海軍力ニ
急キ偉大ニモトトシテ日本ニ不利ナク
横衝ノ不平均ヲ見レバ是レ日本力
現在ノ位置ノ維持セシムル其海軍ノ擴
充ニ終始之ヲ南部ニテアリサレトモ
其海軍ノ成長ニ共ニ陸軍力ヲ毛膨脹
セシムル事ニ耐スル所、アツカニナリ
是レ於テカ日本ノ海軍ヲ擴張セシメ
陸軍ヲ信張セシメカニ者其一ノ
選ニサレハカラス行テ未雨綢
繆國何レカト接近スルニ如
要リスルナリ

在露國日本大使館

日本ニ要細里大陸、其領土ノ存スルニ於テ其
難中絶ノ中心ノ島國中、存スルニ以テ國防ノ基
礎トシテ未レ帝國主義ニ對シ島帝國ノ利益ヲ
保護スルニ優越力ナク海軍ヲ擴張セシムルニ
事カ露島ト密接ナク肉係ヲ保持スルニ於テ陸
軍ノ擴張ヲ中止シ其力ヲ以テ專ラ海軍ノ充實
ニ甲カニストノ得ヘキナリ
若シ夫レ左隈伯力真ニ向日ニ視テ利益ヲ
維護スルニ接シ、努力スルニ於テ國民多數ノ
信託ヲ古事多クスルニトナカレシ
極東ノ於テハ和意ノ相立セサレバナク
不協ノ場合ニ於テ却テ大ニ一致スルニ
アリ日露兩國
固キニ支那ノ或レカ玉(珠ト稱ス)ノ手ニ
及レシコト

MT 1141 1256

MT 1141 1255

ハ不和之憂ト云ハ所ニシテ是レ一憂スルニ支那ノ於テ
彼我兩國ノ政治上又ニ經濟上最重キ大ノ和
害ノ關係ト有スルニ外ナラザルナリ
吾人ノ見解ノ以テスレバ露露協約ニ最良ノ
目的物ト支那ニシテ支那ノ運命カ將來如何ニ決
スルニ之レ處ニシテ極宜ク備テザルニ足ルニテ
新協約中ノ取極メ宜ク之ヲ要トスルナリ
シテ此ノ協約力一九〇七年乃至一九〇四年ニ締結
セリ露露協約ノ基礎トスルニテ露露ニシテ日本
ニあり陸軍擴張ノ力ニ過大ノ經費ヲ投スル
代リ海軍力ノ充實ニ努力シ兼テ其破
壞セシムル財政及經濟新態ノ恢復ニ注力ス
致スル得ヘキナリ

在露國日本大使館

吾人ノ所云ルノ接近カリキナリテ必要ナクニ
信スルニシテ露露協約ノ日米ニ和益ナクニ他國
トノ政治的結合ニ比シ勝ルニト万々ニシテ露露
ヲ以テ他ノ代スルニ能ハザル也
是レ際カ大隈氏ノ政策ニ全テ明白也即チ他
國民ノ之ヲ思ヘテ正告ニ當ルベシトシテ生存的利
ヲ其政策ノ基礎トナシテモ也

MT 1141. 1258

MT 1141 1257

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

三三

暗

加藤外務大臣 本野 大使

本野發 大正三年五月十日午後一〇・五
本野發 同 十日午後一三・五

外務省
加藤 次官

露國陸軍大臣、五月十二日露都並發浦潮へ向ノ
数日前本使カ同大臣ヲ訪問ス際同大臣「本官、
尚、對ニ豫テ起工中、極東防備竣工セル付右
視察、之為ニ極味ニ向フヘキ者申居リタルヲ以テ
、主タル目的「同大臣所言、通テリト察セラル日
露戰事後既ニ十年ヲ経過シタルモ日露軍人
間、感情往々 慰和ヲ欲シ、觀アリニ近來

MT

1141

59

日露の交渉の
本野發の
加藤の

稍々 親近、傾アルニ付今回同大臣、旅以テ機

トシ我陸軍当局者ト會見セシムルヲ得ハ彼我

ノ為メ一層 裨益スル所アルヘシト存セラル所 福嶋

閣下都揃ハ同大臣ト相見、尚極ナク同將軍

ヲ以テ私、清々格ヲ以テ同大臣ト會見セシムルヲ得ハ

至極「直ニカラント信ス事ニ付同意ナラハ同

（服序も）ハ可也訓令相成様致ス

都指

MT

1141

1260

七、官署事業に於ては、民衆に適合するものは成るべく之を民業に移すこと

政府の財政方針は大體以上述ぶる所の如し而して其立案の根基は實に我邦が債務國たるの地位に顧み其外國貿易の狀勢を轉回せむを期するに在り本大臣は諸君が地方財政に於ても大に此點に顧念せられ成るべく緊縮的精神を以て其整理に力めらるゝと同時に國民を管勵し確實なる計畫に周旋する注意を以て國力の開發に全力を傾注せしめられむことを切望して已ます

△大藏所管事務 以上は現内閣財政方針の概要に係るものなり終りに臨み本大臣は大藏省所管の事務にして此際特に諸君の注意を請はむとするものに付一言せむこと即ち市町村の國稅徵收事務の監督に關することは是なり今國稅徵收法の改正に依りて市町村に於ける國稅徵收の費用は約倍加付せらるべき金額は従前に比し約倍加し市町村は新に相當の財源を得ることになり本大臣は市町村が深く交付金の設定の趣旨に鑑み徵收に必要なる各種の施設方法を講じて納税者の利便を圖り、納税の弊を除去し、納税の利便を圖るべきは勿論、徵收に關する諸帳簿を整頓し、税金の收納保管送付に欠なきを期する等、事務官廳の熟議の上國稅徵收に十分努力せむことを望む而して交付金を以て此等の費用に充て尙剩餘を生じたる場合は可成之を制限外課税の國稅附加税の他、市町村稅輕減の財源に充て、國民の負擔を輕減するの途に出でざるべからず諸君は之が監督に付一般の注意を加へられむことを要す

MT 1141 1265

alarmants sur notre politique en Extrême
Orient, propres à compromettre les
efforts continus de nos Gouvernements
de maintenir et de développer les rap-
ports de bon voisinage et de confiance
entre les deux nations.

Je suis sûr que votre Excellence
partage entièrement mon point de vue
et je lui serais très reconnaissant
de me donner cette assurance afin que
je puisse
(en référer à mon Gouvernement.

Dans l'attente d'une réponse je
vous prie, Monsieur le Baron, d'accepter l'ex-
pression de mes sentiments de haute
considération

A. Malensky Malévitch

MT

1141 1266

possibilité d'une guerre prochaine
entre la Russie et le Japon.

Il est vrai que les journaux ont
publié ensuite des commentaires
atténuants du discours de Fukushima
ma et des réfutations de la part
d'un secrétaire et d'un chef de bureau
du Ministère de Commerce et d'Agri-
culture, cependant l'impression pénible
se maintient et il est fort à craindre
que - répandu par les agences télégra-
phiques - l'écho de ce fâcheux incident
ne vienne se répéter en Russie.

Votre Excellence n'ignore pas que
les deux gouvernements - Russe et
Japonais - se sont employés depuis
1907 à combattre les sentiments de
défiance que les deux pays étaient

MT 1141. 1268

enclins d'entretenir l'un vis-à-vis de
l'autre après les événements de 1904-1905,
et à apaiser les inquiétudes mutuelles
qui en étaient la conséquence.

Cette œuvre de paix et de sagesse a eu
les meilleurs résultats: les excellentes
relations politiques qui se sont main-
tenues et développées entre les deux gou-
vernements sous le courant de ces der-
nières années ont été corroborées
par l'opinion publique des deux nations
et justifiées par l'assentiment unanime
de tous ceux qui pressent à
coeur les intérêts essentiels de nos
deux États.

Il est donc plus que regrettable que
le discours d'un membre du Cabinet
ait pu donner naissance à des bruits

MT 1141. 1267

Personnelle et
confidentielle.

Le 21/24 Juillet 1914.

Monsieur le Baron

J'ai été vivement surpris de voir dans les journaux de Tokio du 17 au 19 de ce mois que S. Ex. le Ministre du Commerce et de l'Agriculture a prononcé à Fukushima devant un nombreux auditoire un discours politique qui a donné lieu à des interprétations alarmistes de la presse. Cette dernière a attribué au Vicomte Dura certaines expressions propres à inspirer un doute sur la stabilité de la paix en Extrême Orient et faire redouter...

Votre Excellence

Le Baron Kato

MT 1141, 1269

Private and confidential.

Foreign Office, Tokio,

July, 27, 1914.

Dear Ambassador,

I have received Your Excellency's note of the 24th instant in regard to a press report attributing to Viscount Oura certain expression highly injurious to the relations of cordial friendship so happily existing between our two countries. I am happy to be able to say that upon his return to Tokio from Fukushima he told me that that report was entirely groundless, and that, therefore, he caused the necessary denial to be made public. What he stated on the occasion was that Japan must always be prepared to face all kinds of emergencies and that for that end the national resources should be kept strengthening by means of developing industrial enterprises. I hope that Your Excellency will henceforth take no heed to those reports which are nothing but mere fabrications of irresponsible papers.

I am also happy to express my entire concurrence in your view in regard to the appeasement of the mutual inquietude between the two nations since the deplorable event of 1904-1905, and to add that no efforts will be spared on our part toward that aim. In this connection I beg further to invite Your

Excellency's

Excellency's attention to the address of Count Okuma in the Conference of Prefectural Governors on May 15th last, and to that in the ~~House of Peers~~ ^{Diet} on June 23rd last, when the Premier in pointing out the policy of the Imperial Government stated that the international friendship between Japan and Russia should be promoted on the line of the Conventions between the two Governments.

Your Excellency may rely on my assurance that the Imperial Government will not for a moment depart from the policy as declared by the Premier.

Yours sincerely,

Signed T. Kato

His Excellency

N. Malewsky-Maléwitch,

Russian Ambassador.

715
MT 1141 : 1271

MT 1141 : 1270

附屬書類添附

受17816號

公函第二〇號

大正三年八月八日

在哈爾濱

總領事代理領事官補 川越

外務大臣男爵加藤高明殿

新聞記事反譯呈報ノ件

本月七日癸刊ノ當地露字新聞哈爾濱日報

(東清鐵道廳機關紙)紙上「日露ノ關係ニ

就テト題シ「這般福島縣會議事堂ニ於テ

大浦農商務大臣ノ演說ニ關スル記事ヲ掲載

致居候ニ付御參考マデ右撥反譯ノ上及呈報

在哈爾濱日本帝國總領事館

候 敬具

ヨリ送付ス

川越



MT 1141 ; 1273

MT 1141 ; 1272

（附片 水 英三商店製）

REEL No. 1-0099

0147

文藝

日露ノ關係ニ就テ

日本ノ諸新聞ハ農商務大臣大浦子爵ノ不
 謹慎ナル演説ニ關シ報道シタリ、傳ヘラル、
 所ニヨレバ大浦農相ハ七月十四日福島縣會
 議事堂ニ於ケル演説中「近キ將來日露ノ
 再戦ハ免ルベカラズ、日本ハ之ニ注意ヲ怠ルコトナ
 ク平常之ニ備ヘ置カサルベカラズ」ト述べ右
 演説ヲ終ルト同時ニ福島縣警官寮高長
 ト共ニ列席セル新聞記者ニ對シ右ノ演
 説中日露ノ再戦ニ關スル部分ヲ新聞ニ
 掲載スルコトヲ禁ジタリ、故ニ同地ノ新聞ハソノ
 掲載ヲ見合セタリト雖モ他ニ之カ報道ヲナシ

在哈爾濱日本帝國總領事館

タルモノアリ農相ノ不謹慎ナル演説ハ隠レナキ
 事實トシテ四方ニ傳播セラレタリ

大浦農相ト共ニ東北地方ヲ巡歴シタル農商
 務省農務局長道家氏ハ日本ノ各新聞
 ニ掲載セラレタル前記ノ報道ヲ打消シテ曰ク
 「余ハ始ヨリ終マテ農相ノ演説ヲ聞ケルモ農
 相ノ日露再戦ヲ云々ニタルヲ聽カズ、唯農相
 ハ最近露國カ西伯利ノ開發殊ニ交通機
 關ノ完備ヲ急ギ烏蘇里其他鐵道ノ改革、
 造營ヲナシアルヲホバ日本人ニ對シ露國極
 東經營ノ進捗ヲ説ケルノミ、而シテ農相ハ之
 ニ對スル日本人ノ覺悟トシテ日本ハ喫今國一
 致以テ殖産興業ヲ盛ニスベキヲ求ム」ト殖産

(附片 永英三商店製)

MT 1141; 1275

MT 1141; 1274

興業ニ富國強兵ノ根本義ナリト論セシニ過
キス下

道家局長ニ更ニ之ニ附言シテ、農相ノ演説
ニ關シ斯ノ如キ誤傳ノツタヘルハ殊更ニ農
相ヲ陷レシカタメニナシタルモノニ外ナズトノ結論
ヲセリ

七月十七日發行「毎日」及「中央新聞」(政友會
機關紙)ニ大浦農相ノ不謹慎ナル演説ヲ
攻撃シタル記事加公安ヲ害スルモノト認メラレ官
憲ニ押収セラレ、長野新聞及信濃新聞亦
同一ノ理由ノ下ニ押収セラレタリ

東北地方巡遊ヨリ歸京セル大浦農相ハ七月
十七日陛下ニ謁見仰付ケラレタリ

在哈爾濱日本帝國總領事館

(發行所 英三商店製)

MT 1141 : 1276

REEL No. 1-0099

0149

次

17844

大正三年八月拾七日接受

管正務

大正三年八月六日

在捕刺斯德

總領事代理野村基辰

外務大臣男爵加藤高明殿

在留邦人提灯行列舉行之件

時局之隆し露國民之同情ト好意トヲ表スル趣旨ヲ以テ
地在留本邦人間ニ提灯行列舉行ヲ企テモナリ一月四日
午後七時ヲ期シ約百餘名ノ邦人ヲ集メ築田敷地前
夕集シ次ニ市中ヲ練リ其時順以市中寺院市役所

在浦潮日本總領事館

軍務知事以西伯利艦隊司令官ト倉前至リ萬歳ヲ
三唱シ居中多數ノ露人如リ来リ舞集ニ名キ四五人
ノ大集団トナリ市中公園ヲ通過シ英佛領事館前
至リ最後ニ万歳前ニ来リ萬歳声裡ニ解散シ
是レヨリ先キ本館ニ時局ノ関心ニ在留邦人ノ心得付キ
テ檢シ特ニ此際ニ於テ輕率ヲ戒メ專ニ家業ニ奮勵ス
トキ肯訓諭ヲナシ置キテ檢査右發起人等ハ豫メ何事
本館ニ相談ヲスラフコトナリ直接要塞司令官ニ付キ許可
ヲホメテトシタル也司令官部ニ於テ願事ヲ在留邦人
トノコトナリシトテ前日ニ至リ始メテ本館ニ在留書面
シ来リキ本館ニテ少事ノ實情ヲ悉ク知ルニ既ニ要塞司
令部ニ通シテ以上之ヲ中止セシムルコト相立ノ感觸ヲ好
良ナラシムル所以ニアラズト思惟シ又交渉ノ態度ヲ持テ至

MT 1141 1278

MT 1141 1277

席上ノ思ヒ領事ノ立場ヲ説明シ查在人員等自身ヲ更ニ
直接願書ヲ提出セシムルコトヲ發在人員等ハ四日右願書ヲ司
令部ニ提出シタル右對テ明示的許可ノ通告ヲ待タズ
夜直ニ前記ノ通り提付行列ヲ奉行シタル司令部ニ於
テハ之ヲ默許シタル如ク只要塞司令官々令前ニ赴ク
ト止メレメタルハ

右在畫ニ各地露人ニ多ク好感ヲ興ハルモノ如ク右夜直
民ニ盛ニ之ヲ歡迎シテ寺寺院ノ僧正並ニ艦隊司令官等ハ
何レモ熱烈ノ言辭ヲ以テ集團ノ挨拶ヲナシ新聞紙ニ何モ
感謝ノ意ヲ表シ最近日本新聞紙上ニ現コタル諸種ノ親露
説ヲ引用シ斯ル如ク是レ兩國民友好ノ増進ヲ云々敬表
ナリトシ此友情ノ報ニ正ニ露國民ノ義務ヲト切論セ

在浦潮日本總領事館

右報告申進候 敬具

MT 1141 : 1280

MT 1141 1279

REEL No. 1-0099

